

1. 建学の精神

2. 地域・社会貢献

(1) 現状

① 地域理解の増進

・地域理解を深めるために、官民の協力を得ながら地域事情・課題など地域志向の内容を積極的に取り入れた講座の開講

本年度は専門演習の2つのゼミ（東野ゼミ・篠田ゼミ）で、地域課題について取り組んだ研究があった。 (詳細は富山短期大学HPに記載)

・資格・免許取得に向けて、富山県内の施設・事業所等の協力を得、現場における効果的な実習を実施。 (詳細は富山短期大学HPに記載)

・地域課題解決型テーマや地域における調査活動等を取り入れた卒業研究等の積極的な推進

篠田准教授・東野准教授が、競争的資金である「令和元年度とやま呉西圏域調査研究事業」の採択による教育研究課題事業の助成金交付を受け、地域における公共図書館の活性化を図ることを目的として、学生とともに実態調査、課題研究を行った。 (詳細は富山短期大学HPに記載、ならびに報告書作成)

② 公開講座等の充実

・県民に役立ち、本学の特色をアピールできる魅力ある公開講座の積極的実施と、そのための効率的・効果的なPR

地域連携センターが統括する「富山短期大学公開講座」に注力し、6講座を担当した。 (詳細は「令和元年富山短期大学地域連携活動年報」に記載)

・地域住民や学生を対象にした健康講座、介護講座、子育て講座などの、自治体や学校への積極的な売り込み・PR

ラジオの番組「とれたてワイド朝生！」(北日本放送)内の「教えてティーチャー！」のコーナーにて、篠田准教授と東野准教授が生出演し、専門分野の紹介や本学での取り組みについて紹介した。

(詳細は令和元年6月教授会資料に記載)

③ 県内大学間連携の強化

・「大学コンソーシアム富山」を通じた県内大学との連携の強化を行った。

(詳細は令和元年7月教授会資料に記載)

④ 高大連携事業の強化

- ・ 県内高校生の学習意欲増進のための高校出張授業を検討実施した。

(詳細は「令和元年富山短期大学地域連携活動年報」に記載)

- ・ 富山国際大学付属高校との教育連携の強化・促進を検討し、付属高校進路ガイダンスへの支援を実施した。

(詳細は「令和元年富山短期大学地域連携活動年報」に記載)

⑤ 県内産官学連携の促進

自治体へ新たな連携の働きかけ。南砺市との連携協定に基づく公開講座等を検討した。

⑥ 本学の地域連携体制の整備・強化

地域貢献活動に関する情報発信を強化するため、「富山短期大学地域連携活動年報」を作成した。

(2) 課題

- ① 大学コンソーシアム富山への単位互換科目を提供したものの、実施時期が適切でなく、受講生が極めて少なかったことから開講できなかった。
- ② 公開講座をはじめとする各種地域連携事業について、地域連携活動が更に伝わるよう、可視化や情報発信の強化が必要である。

(3) 次年度の実施計画

- ① 南砺市との包括提携の更なる効果を生み出すべく、地域理解や地域課題に関して、組織的に把握していくことを検討課題としたい。
- ② 公開講座：多様な専門分野を有する教員の特徴を生かし、開講時期、内容の検討
- ③ 競争的資金の獲得を視野に、地域の課題解決を図る研究の推進
- ④ 学生の「とやままちづくりコンテスト」等への参加を促す
- ⑤ 「大学コンソーシアム」は実施時期等を再検討して、単位互換科目を提供する。
- ⑥ 付属高校進路ガイダンス支援を継続したい。

3. 教育目標

(1) 現状

- ① 学科の教育目的及び目標を建学の精神に基づき確立している。

(詳細は学生生活のしおりに記載)

- ② 学科の教育目的及び目標を、ホームページや「学生生活のしおり」に記載し学内外に表明している。

(2) 課題

学科内で教育目的及び目標を周知する機会が多くはない。

(3) 次年度の実施計画

入学時オリエンテーションで、学生への教育目的・目標の周知を継続して図る。

4. 学習成果

(1) 現状

- ① 学習成果を、建学の精神および学科の教育目的・目標に基づき定めている。

(詳細は学生生活のしおりに記載)

- ② 学習成果を、「学生生活のしおり」やweb シラバスで各科目に「学修成果別評価基準(ルーブリック)」として記載し、学内外に表明している。

- ③ Web シラバスシステムを導入して、学生の学習成果をレーダーチャートなどに可視化して定期的に点検し、各教員が学期ごとに「授業改善レポート」を作成している。(詳細はWeb シラバスに記載)

- ④ また、Web シラバスシステムを利用して、学生に毎時間及び各期末に「授業アンケート」を実施し、学生による学習成果の自己評価を数値化して、授業改善に生かしている。

(2) 課題

- ① Web シラバスシステムを導入したことで、情報量が多くなり分析に時間を要するようになった。

- ② 学習成果をさらに明確なものにする。一層、具体的で、一定期間内で獲得可能、測定可能なものにするように努めることが必要である。

(3) 次年度の実施計画

Web シラバスシステムを短時間で有効活用できる方策を検討する。

5. 三つの方針

(1) 現状

ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッションポリシーを一体的に策定し、「学生生活のしおり」や「募集要項」に記載して、内外に表明している。

(2) 課題

授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

(3) 次年度の実施計画

変更の必要性があれば三つの方針の見直しを図る。

6. 内部質保証

(1) 現状

① FD・SDの推進：授業改善事例集等の作成

本学科からは森井泉仁准教授が研究授業の実施・報告を提出した。

(詳細は令和元年11月教授会資料に記載)

② Webシラバスシステムを導入して、授業ごと及び学期ごとに「授業アンケート」を実施して、日常的に自己点検・評価を行っている。

(2) 課題

時間に追われて毎時の授業アンケートができないこともある。日常的な自己点検評価の方法を工夫する必要がある。

(3) 次年度の実施計画

授業アンケートでの満足度の向上をめざす。

7. 教育の質

(1) 現状

① 多面的な学修成果の把握による、「能力基準別評価方法」、「ルーブリック」、「シラバス」の点検と改善

学科長と教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員のWebシラバスでの精緻なチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼している。

② 「授業アンケート」の利用による学修成果の到達度・変化の把握とその要因の分析

- ・令和元年度の学科の「授業アンケート」については、学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートで実施している。
- ・科内会議や学科FDで随時、学修成果の測定・評価内容の見直し・改善を一定程度実施している。

(2) 課題

複数教員による担当科目の共通理解がまだ不十分である。

(3) 次年度の実施計画

授業アンケートでの満足度の向上をめざす。

8. 学位授与方針

(1) 現状

- ① 学科の卒業認定・学位授与の方針を定めている。(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ② 学科の卒業認定・学位授与方針は学科の学習成果に対応しており、卒業の要件、成績評価の基準、資格取得の要件も明確に示している。

(詳細は学生生活のしおりに記載)

- ③ 学科の卒業認定・学位授与の方針は、短期大学評価基準と照らし合わせて点検しており、社会的・国際的に通用性があると考えます。

(2) 課題

学科内で卒業認定・学位授与の方針を周知する機会が多くはない。

(3) 次年次の実施計画

学科内で卒業認定・学位授与の方針の周知を継続して図る。

9. 教育課程編成・実施の方針

(1) 現状

- ① 学科の教育課程編成・実施の方針を明確に示している。
(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ② 学科の教育課程は、卒業認定・学位授与の方針に対応している。
- ③ 学科の教員は、経歴・業績を基に、短期大学設置基準の教員の資格にのっとり適切に配置している。
(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ④ 教育課程編成・実施方針の実現とその点検・改善

・本学科では毎年、学科の「教育目的・目標」を実現するためのより効果的な教育課程の検討を行っている。

・専門科目:編入学を志す学生のモチベーションの維持・向上を図るため、「会計学特講(2年次前期)」を専門科目に新設した。(詳細は学生生活のしおりに記載)

・司書課程科目:図書館に関する科目の学習で得た知識・技術をもとに、公共図書館における業務を経験するため、「図書館実習(2年次後期)」を新設した。

(詳細は学生生活のしおりに記載)

- ⑤ 科目間の関連を示す科目体系図の点検・改善
令和元年度の学科の科目体系図についても、上記の次年度の教育課程の変更に
伴い、点検・改善を実施した。(詳細は Web シラバスに記載)

(2) 課題

学科内で教育課程編成・実施の方針を周知する機会が多くはない。

(3) 次年度の実施計画

- ④、⑤の継続

10. 幅広く深い教養

(1) 現状

- ① 短期大学設置基準にのっとり、幅広く深い教養を培うよう教養科目を編成し、実
施体制も確立している。(詳細は学生生活のしおりに記載)
- ② 教養科目についても「授業アンケート」を実施してその効果を測定・評価し、改
善に取り組んでいる。
- ③ 総合教養科目、外国語・体育科目など教養教育の改善・充実
大学教育の目的と学び方や、学習に必要な基礎学力、および社会人基礎力の修
得を目標とする科目「大学教育と学修」を、学科の専任教員がオムニバス形式
で1~2回担当し実施した。(詳細は Web シラバスに記載)
- ④ 初年次教育・導入教育の充実
民間会社を活用し、数学、英語、言語思考力に関するプレースメントテストを
実施した。これらの結果を踏まえ、教養演習で指導・助言を行った。
(結果は経営情報学科 NAS にて保管)
- ⑥ 教育課程外における、学生・教員の交流活動や地域と連携した学外活動の充実・改
善
教員によるボランティア活動参加への支援・指導を実施した。例えば、富山マ
ラソン 2019 のボランティア等を通して、地域交流活動を促進した。また、県内
地域との連携した学外研修をゼミ単位で数回実施し、大学祭においては古本市
を開催した。(詳細は富山短期大学 HP に記載)

(2) 課題

学科内で教養科目編成の方針を周知する機会が多くはない。

(3) 次年度の実施計画

②、③、④、⑤の継続

11. 職業教育

(1) 現状

① 専門職養成課程等、専門教育の点検・充実

経営情報学科では平成27年度入学生より、入学前の資格取得に対する単位認定を整備し、上位の資格に挑戦できるようにした。

なお、会計科目については単位認定科目や単位認定された学生が履修できる科目について再点検し、明文化した。(詳細は学生生活のしおりに記載)

② キャリア教育の強化

LO5の可視化を念頭に置き、民間会社を活用し、コミュニケーション能力テストを1・2年次に実施し、職業教育の成果を測る資料として利用している。

(結果は経営情報学科NASにて保管)

③ インターンシップの取り組み

経営情報学科では、「学生が在学中に自らの専攻、将来のキャリアに関連した就業体験を行うこと」を目的にインターンシップを実施しており、1年生は企業団体で3日間から10日間の実習、研修を行っている。

本年度も夏季休暇を利用し、約50の企業団体に、ほぼ全員の1年生が参加して就業体験を行った。また、11月にはその成果をプレゼンする学内発表会も実施し、体験の情報共有とプレゼン力の養成を図った。

(結果は経営情報学科NASにて保管)

(2) 課題

① 資格取得率を上げる取り組みについて検討する必要がある。

② コミュニケーション能力テストの経年変化を分析する必要がある。

③ インターンシップと進路指導との連携をより強化する必要がある。

(3) 次年度の実施計画

①、②、③の継続

12. 入学者受入れ方針

(1) 現状

・ 多様な入学試験の実施と安定的な学生確保

本年度は新入試制度への移行に伴い、受験生の動きも早期化すると見込まれたため、推薦の指定校枠区分については高校側の要望なども含め柔軟に対応し早期確保を目指した。その結果、昨年度より多くの受験生が受験し、推薦・特別入試では昨年度と同様 74 名を確保できた。更に、明確な基準を設けることにより、学力不足の生徒を確実に判断できたことも良かった点である。

(2) 課題

経営情報学科のアドミッションポリシーである「職業人の育成」に重点を置いた配点の見直し、特に評定値と出欠の加点の見直しが課題である。

(3) 次年度の実施計画

次年度も入試制度の影響が継続されると予想されるため、データ分析とあわせてある程度柔軟な対応をして入学定員の確保につなげていきたい。

1 3. 明確な学習成果

(1) 現状

① 多面的な学修成果の把握による、「能力基準別評価方法」、「ルーブリック」、
シラバス」の点検と改善

- ・ 学科長と教務委員が経営情報学科のカリキュラム・ポリシーに沿って、各教員の Web シラバスでの精緻なチェックを実施し、現時点での基準に対応していないものは修正を依頼した。
- ・ 科内会議や学科 FD で随時、学修成果の測定・評価内容の見直し・改善を一定程度実施している。

② 「学生アンケート」の利用による学修成果の到達度・変化の把握とその要因の分析

学修成果の到達度・変化の把握と、その要因の分析について、各教員が授業改善レポートで実施した。

(2) 課題

学科内で学科 FD を実施する機会が多くはない。

(3) 次年度の実施計画

①、②の継続

14. 学習成果を測定する仕組み

(1) 現状

- ① 教務部で Web シラバスシステムを管理しており、学習成果の獲得状況を量的・質的データを用いて測定する仕組みをもっている。

(詳細は教務部で記載のため省略)

- ② 2年間の学習成果を集約したものとして「専門演習報告」を作成している。

(詳細は富山短期大学 HP に記載)

(3) 課題

授業アンケートの項目が多いため回答しない学生がおり、アンケートの回答率を上げるために苦慮している。

(4) 次年度の実施計画

- ② の継続

15. 学習成果を可視化する指標

(1) 現状

- ① 就職支援センターで資格取得率や専門職就職率等を調査し、公表している。

(詳細は富山短期大学 HP に記載)

- ② 教務部で「授業アンケート」の結果を公表している。

(結果は経営情報学科 NAS にて保管)

(2) 課題

授業アンケートの項目への回答率は1年生が84.9パーセント(前年度は96.4パーセント)、2年生が83.5パーセント(前年度は93.0パーセント)と前回と比べると低くなっている。

(3) 次年度の実施計画

- ①、②の継続

16. 卒業後評価の取組

(1) 現状

- ① 就職支援センターが毎年卒業生の就職先を訪問して評価を聴取し、学習成果の点検に活用している。(訪問記録は就職支援センターで集約保管)

- ② 2年生の就職内定先への御礼、および次年度の求人見込みの聴取に一教員が担当

として 2 社(合計 22 社)を訪問した。(結果は経営情報学科 NAS にて保管)

- ・今年度は就職活動が早まっていることから、訪問時期を 1 月に繰り上げ実施した。
- ・訪問先の選定は、主に以前から経営情報学科と繋がり深い企業を中心に、学科と就職支援センターで協議した。
- ・訪問の際は、内定の御礼とともに、採用人数、本学の求人、採用活動のスケジュール、内定の要件及び応募者に望む資質・能力・資格、その他・特記事項)を聴取し、学科共有ドライブにて管理、情報共有を行った。

(2) 課題

教員による企業訪問は、企業からダイレクトに要望を聞き出すことができる上に、教員にとっても就職活動の現状を知るいい機会になっている。しかし 1 月下旬は、後期授業のまとめや期末試験の実施期間であることから教員の多忙感が発生している。また就職活動スケジュールの解禁自体の見直しから、今後も同じ期間に訪問するのが適当であるかは検討する必要がある。

(3) 次年度実施計画

次年度に向けての企業訪問時期は、就職活動のスケジュールを鑑み検討していくこととする。

17. 教育資源の有効活用

(1) 現状

① ラーニング・コモンズやラーニング・スタジオ等教室の一層の整備とアクティブ・ラーニング環境充実のための設備・機器の導入

- ・ 学科ガイダンスや各授業で自学自習や学び合いを行うよう指導した結果、学生間での利用率は向上している。
- ・ ラーニング・コモンズ(A303 教室)は学生がグループ学習や、自学自習に使用している。A131 教室は専門演習発表会や専門演習・教養演習、各種行事で使用している。A313 教室はビジネス実務・演習や、キャリア・デザイン講座などの多くの科目でアクティブ・ラーニングやグループワークを目的に使用されている。

② 学生に対する ICT 環境の充実

現在の ICT 環境について学生に授業やオリエンテーションでの周知徹底を行い、各授業などを通じて ICT 環境利用促進を実施している。

- ③ Web シラバスシステムを利用して成績や授業アンケートを分析し、授業改善レポート等を作成して授業改善を心掛けている。 (詳細は Web シラバスに記載)

(2) 課題

ICT 環境の維持と充実には多額の予算がかかる。

(3) 次年度の実施計画

- ①、②、③の継続

18. 学習支援

(1) 現状

- ① 成績評価や各種学生アンケート結果の学生へのフィードバックとアフターケアの充実

- ・ 授業科目の履修生成績評価や、各種学生アンケート結果などのデータ収集とフィードバック方法、及びアフターケアの充実については、各教員が授業改善レポートで点検し、改善のための検討を行った。
- ・ プレースメントテスト、学生アンケート結果のデータは学科で共有され、それらを学生にフィードバックし、個別指導を実施した。とりわけ入学前後の早い段階での情報共有により、2年間の効果的な指導につながるよう取り組んだ。 (結果は経営情報学科 NAS にて保管)

- ② 成績開示と履修指導の実施及び個別指導の充実

- ・ 学生の成績は GPA 評価を付加した資料を学生に開示し、それを基にゼミ担当教員が学生の個別指導を行っている。
- ・ また、科内会議で学生指導の状況を共有するなどして充実させた。今年度は出欠管理を厳しく行い、4回以上欠席者は保護者へ郵送で連絡を行う。
- ・ また、成績等不振学生に対する個別指導を教授会決定内容に準じて実施した。
- ・ さらに、成績不振学生に対する個別指導として、保護者懇談会(大学祭期間中)を実施し、保護者への現状理解と情報共有、当該学生の意識確認などを行った。

- ③ 熟度別授業や少人数クラス、補習授業など基礎学力不足の学生に対する取組の強化

令和元年度入学生も数学、英語でプレースメントテストの予算化を行い実施した。

- ④ アクティブ・ラーニングを導入した授業科目の増加

- ・ 学科ではアクティブ・ラーニングの導入を推奨している。
- ・ 毎回の授業アンケート結果に対して各学生にコメントを返し、匿名性を保持した状態で全員へ返信することで、他受講生の意見や類似した意見を参考に、主体的な学びを促進させることを試みた。

⑤ 授業外学修時間を増やすための授業方法等の工夫

予習・復習を必要とする授業（反転授業）については、学科の殆どの教員が Web シラバスを利用して実施している。その効果は、各教員が学生の成績や期末授業アンケートなどを基に授業改善レポートで検証を行っている。

⑥ 図書館設備・環境の改善

- ・ 各専任教員が自分の専門分野の中で特に学生に読んでもらいたい本を選定し図書館に揃えた。経済・経営・会計・簿記・ビジネス実務・図書館分野の本の良書を取り揃えたことは学生の更なる勉学に役立つと期待される。
- ・ また今年度から、教室の一部に新聞の閲覧コーナーを設けた。6 紙用意され、記事の読み比べに適している。

(2) 課題

- ① 成績不良であっても改善に努める学生と、そうでない学生の二極化が生じている。
- ② 学生が進んで図書館に足を運び学修するきっかけづくりが必要である。科目での課題提出と絡めた指導が必要である。
- ③ また科内の新聞の閲覧コーナーは、予想以上に学生が活用している感があるが、ただ読むだけではない新聞の活用策を検討していく必要がある。

(3) 次年度の実施計画

- ① 今後は成績不良者への補習を検討しなければならない。
- ② 1 年次の「大学教育と学修」は専任教員全員がオムニバスでコマを担当している。この科目の指導を通して図書館利用を促すと共に、より学生が利用しやすい図書館のあり方や新聞の活用策を提案していく。

19. 生活支援

(1) 現状

- ① 学生部・保健室と連携して、学生の生活支援を積極的に行っている。
(詳細は学生部で記載のため省略)
- ② 学生への支援・相談は主にゼミ担任が担当している。

(2) 課題

- ① カウンセリングを必要とする学生が増えている。
- ② 母子家庭など経済的支援を必要とする学生が増えている。

(3) 今年度の実施計画

学生部・保健室との連携を密にして、支援を必要とする学生に対して適切かつ迅速に対応する。

20. 進路支援

(1) 現状

- ① 本学に来た求人は、学生（Education システム）にてデジタルデータとして提供している他、紙媒体の求人票を学内 2 か所（3F 事務室廊下、就職資料室）で閲覧できるコーナーを設置している。
- ② 2 年生の就職内定先への御礼、および次年度の求人見込みの聴取に一教員が担当として 2 社(合計 22 社)を訪問した。（結果は経営情報学科 NAS にて保管）
- ③ 近年増加する就職支援サイト(マイナビ・リクナビ等)の使い方や登録方法を指導し、早期に活動を開始するよう促している。
- ④ 企業へのエントリー方法や履歴書の書き方、そして礼状の出し方までの一連の就職活動は、進路ガイダンスにて一斉指導を行っている。
- ⑤ 学生の個別支援は各ゼミ担当教員が行っている。少人数のゼミであるため、学生ひとり一人の資質に合わせた指導が出来ている。
- ⑥ 就職活動に困難が生じている学生に対しては、就職支援センターと連携し、個別に指導が出来る体制を構築している。

(2) 課題

- ① 今後の就職活動スケジュールが不明確であるため、学生それぞれの支援日程も方法も多様化していくと考えられる。データの提供について学生に周知徹底する必要がある。
- ② 時代に即した訪問先のリストアップが必要である。
- ③ 就職活動の多様化に合わせた指導が必要である。
- ④ 就職活動の前倒しが考えられることから、進路ガイダンスのスケジュールの見直しが必要である。
- ⑤ ゼミ担任による指導のバラつきを無くすために、キャリア・ビジネス系の科目にて、基礎的な指導をより強化する必要がある。
- ⑥ 就職活動の困難な学生は勿論のこと、編入学試験の結果によっては、進学から就職に切り替える必要が生じる。企業への個別アプローチが必要となり、就職支援セン

ターの協力が必要である。

(3) 次年度の実施計画

①から⑥まで継続するが、就職活動スケジュールが不明確であるため、学生が希望する進路に合わせた柔軟な指導がより必要となる。科内での情報共有と就職支援センターとの連携強化に努める。

21. 健康支援

(1) 現状

障害のある学生等に対する個別支援の強化

- ・入学前に申請があった場合、保健室から各学年担任に連絡される。本人の意思を確認し、周知する範囲を厳守しプライバシーの保護に努めている。
- ・今年度は、心臓疾患のある学生支援として階段に昇降機の設置を本部に依頼し許可された。またアナフィラキシー対策とALD使用方法の講習を全教員が受講した。
- ・学年はじめに保健室から学生の健康情報の提供があり、それに基づいて学生への対応には注意を払っている。

(2) 課題

学習障害や発達障害を抱える学生の増加に対する対策を講じるべきと考える。基本方針として保健室との連携にて対応しているが、学修や就職支援等のゼミ担任の負担が大きいと云える。

(3) 次年度の実施計画

環境整備で対応できる支援策は速やかに実施し、学習障害や発達障害を抱える学生に対してはもより保健室との連携を強化していく。

26. 教育研究活動

(1) 現状

- ① 専任教員は、学科の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。
- ② 他のチェックポイントについては、教務部を中心として十分に取り組んでいる。
(詳細は教務部で記載のため省略)
- ② 本年度は経営情報学科教員3名が富山短期大学紀要に計3編、3名が学外誌に計4編の研究成果を発表した。

(詳細は令和元年富山短期大学紀要ならびに巻末資料に記載)

(2) 課題

- ① 学生への指導に要する時間が多くなり、研究活動にかかる時間が減りつつある。
- ② 会議等も増大する傾向にあり、教育研究活動にかかる時間が確保できないことがある。

(3) 次年度の実施計画

教育研究活動の時間を確保するため、会議の時間短縮を目指し運営方法を見直す。

